

一般質問

防犯灯、公共施設のLED化は



公明党 大久保 進
おおくほ すすむ

問 経費節減にもなり、環境にも優しい防犯灯等のLED化をリース方式でできないか。

答 各町会から防犯灯設置要望があった箇所について新設をしており、平成25年度からの新設分については、LED化をする予定で計上している。既存の防犯灯に対応できる蛍光管型も実用化が図られつつあるとの情報もあることから商品開発の状況を見ながら、どのような方法でLED化を進めていくか検討中である。公共施設のLED化については、小・中学校も含めて、補助制度を利用するなど、可能な限り進めていく。

子ども広場の設置

問 私の住む町会には子供たちが休日や学校から帰って来てから安全に遊べる場所がない。心配しながら道路上で横を通る車両に気をつけながら遊んでいる。未来の宝である子どもたちが安心して遊べる広場の設置ができないか。

答 子どもの情操教育、仲間意識の確立等にかかせない場所と考える。地元町会よりの要望、土地の提供があれば積極的に推進する。



秩父市ペタンクテラン

ペタンクコートの夜間照明設置

問 ペタンク専用コートに夜間照明の設置は。

答 ペタンクの普及や健康づくりの面から有効と考える。しかし東高跡地の専用コートは、埼玉県より土地を借りているため、施設を設置するには県と協議し許可を受けなくてはならない。また、電気の配線状況はトイレの浄化槽に必要な電気しかなく、新規の照明施設の設置は非常に厳しい。

定住自立圏構想における提案



市民クラブ 木村 隆彦
きむら たかひこ

問 昨年10月に韓国・江陵市で行われた世界無形文化祝典で、秩父産お菓子の販売が行われたと聞いているが、どのような販売状況であったか。

答 秩父産のメープルシロップ「秩父カエデ糖」や「ちちぶ太白いも」など、6種類1,100個を販売。また、白玉だんごの試食販売、秩父の韓国語版観光リーフレットの配布や日本の子供の遊び（けん玉・だるま落とし）等を紹介し、周辺ブースを圧倒する集客があり会期中中でお菓子が完売するほどの盛況であった。また、新聞6紙に記事として取り上げられたほか、今年2月には駐韓日本大使館の韓国国内向け広報紙にも掲載されるなど、情報発信の面でも大きな成果があった。

問 海外で物産展を開催し秩父で生産された商品等を海外で販売することについて。

答 海外出店に伴うノウハウの蓄積が進み、その経験を共有できたことは、今後、市が地域企業の海外展開を支援していく上で、必ずプラスに働いてくるものと考えられる。また、新たな「生産拠点」として



昨年10月韓国・江陵市で行われた秩父産お菓子の販売の様子

だけでなく、新たな「販路」として海外展開を模索する動きが、秩父地域でも活性化することが予想される。今後、積極的に支援していく。

問 定住自立圏構想に位置付けるといふ提案に対して、どのように考えるか。

答 業種・地域の広がりや連動しながら、柔軟に検討していきたいと考える。

一般質問

太陽光発電と農地

日本共産党秩父市議員

新井 康一



あらい せいいち

問 農業委員会では、畑にソーラー発電用パネルを設置するために農地転用をするという申請が目につくようになった。再生可能エネルギーの活用ということでは認めざるを得ない状況である。しかし、農業委員会では遊休農地などの調査も行なっていて、不耕作地の解消を推進している中で、比較的平坦で日照など条件のいい農地が太陽光発電にも適している転用されてしまう。今のうちに農地への太陽光発電施設の設置については、ある一定のルールを作っておく必要があるのではないか。

答 昨年4月に国・県より「優良農地を除く第2種・第3種農地は転用許可を受ければ設置可能」と通知されている。

問 市がすすめるメガソーラーについては市長名で大規模な農地転用申請が出されたが、農業委員会にはこの事業の説明がなかった。市の事業であれば、担当者が来て説明するのがスジではないのか。
答 配慮が足りなかったと反省している。3月の総会には説明を行うようにする。

放射能汚染対策

問 給食の食材の検査については公表された数値を見ると、計測の検出下限値が高すぎる。検体の密度を高くする、計測時間を長くするなど検出下限値を下げなければ検査の意味がないのでは。

答 給食により多く含まれる食材を中心に、1食分の検査をしている。県の情報も入手しながら引き続き努力していく。



市が進める大規模メガソーラー発電の予定地

◎市長の施政方針

今後の企業誘致のあり方は

問 一昨年実施した「秩父市企業立地に関する調査」の結果を見ると、企業が進出の際に重視することの1番は「道路などの物流インフラ」で、次が「市場、自社工場とのアクセス」となっている。また、国内に工場等を立地する動きもわずかに4%と少ない。こうした中では、大型の企業誘致とは別に、「地域の売り」と「企業ニーズ」に則した柔軟な企業誘致の形が求められていると考えるが。

答 広くアンテナを張って情報を集め、誠意を持って誘致活動を継続することが誘致の近道。同時に、既存企業の流出を防ぐ戦略も並行していく。

中小企業振興基本条例の設置を

問 地域の経済や雇用を実質的に支えているのは地元の中小企業である。こうしたことから、中小事業者を支援・育成していく基本姿勢を明確に打ち出した「中小企業振興基本条例」を制定する自治体が増えてきている。秩父市での制定は。

答 市では商工業振興基本条例を

制定しているが、この条例の見直しや改正も検討したい。

140号バイパス接続道路の整備

問 新皆野橋開通から2年、開通前後の交通量や交通事故の実態はまた、接続道路である県道秩父児玉線等の交通安全対策は。

答 県道秩父児玉線の交通量は、昼間の12時間で約2千台の増。同じく2年間の交通事故は5件から18件に。課題箇所の整備は、県と連携しながら事業促進に取り組む。



金崎 昌之

かなざき まさゆき



交通量が増え整備が進む県道秩父児玉線

一般質問

市営馬場について

問 市営馬場を、羊山に移転する考えについて、連盟との協議内容および提言した効果の斟酌内容は。

答 候補地の選定は、馬術競技の振興と後継者育成のため、競技人口を増やし、多くの方が馬に親しむ、観光資源としても活用できることを視野に入れて検討したが、限られた期間、土地の状況等を協議した上で移転先を決めた。

秩父まつり会館について

問 合併後の入館者数が往年の半数以下に減少しているが、原因と収支状況およびリニューアルによる今後の構想について。

答 赤字が続く理由は、会館の管理に対する市の関わりの希薄化と見える。今後は運営を市が主体的に行い、秩父地域の観光の核となるよう市民のご意見を得てリニューアルし、開かれたまつり会館として魅力ある情報発信をし、入館者を増やし黒字化を目指していく。

財政状況について

問 中期財政計画の将来予測される形式収支の赤字対策と財源不足

を解消する具体策について。

答 歳出の10%を占める公債費には減債基金を活用し、合併特例期間終了後の交付税の減額には計画的に歳出削減して積み立てた減債基金で解消する。また自主財源の確保には、市税の収納率の向上、企業誘致による税収確保を、経費の削減については、健全化計画の具体的対策により取り組んでいく。



彩政会 松澤 一雄
まつざわ かずお



秩父まつり会館

◎特別公開の成果と今後の方針

子育て支援と高齢者支援

問 学童保育室は学校生活の延長ではなく、家庭生活の延長の場であるといえる。働く親を持つ子どもたちの毎日の生活の場であり、健康や安全の管理など擁護を含めた基本的な生活が保障され、子どもの成長段階に応じた適切な指導、援助が行われて初めて、その役割を果たすことができる。学童保育室はこのような実態に合わせて施設作りが必要だ。補助金は国、県及び市町村が3分の1ずつ負担する制度となっている、埼玉県の制度は国の制度だけでは学童保育室の運営は難しいと考え、民間学童保育室に上乗せして補助する制度を設けている。なぜ、県の上乗せ基準を実施しないのか。

答 今後、民間学童保育施設について官民の格差是正を図っていく。

問 別所地内県道および花の木小学校周辺の市道に、通学専用の歩道ができないか。別所町会から市長と語る会の席上で要望を市長にお願いしたどうかについて。

答 県道については県土整備にお願いしている。市道については、さらに調査検討していく。

問 旧市内ではお店の減少やスー

日本共産党秩父市議団

やまなか すずむ 山中 進



パーなど郊外への出店、秩父病院など大きな病院が移転により通院や買い物など、不便をきたしている。市民や高齢者へのサービスとして、市内循環バスの運行で足の確保ができないか。

答 核となる市内循環路線を設定し、足の確保を考えている。



路線バスの発着

